

博物館だより



No.143

平成30年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS 「みやこ遺産」を活かすMiyako Heritage Festival 第6回みやこ町古墳まつり開催!

日時:10月21日(日) 場所:豊津地区史跡&歴史民俗博物館

主な学習イベント。

●午前の部(9~11時)
歴史たんけんウォーク

みやこの明治発信元「豊津城下散策」

*要申込/定員25名(先着順)

*参加費二〇〇円

*雨天中止

●午後の部(13~16時)

歴史文化カレッジ(芸術&文化体験)

・育徳館高校管弦楽部演奏

・文化講演会「郷土の明治五〇年」

「明治の殖産興業と吉田健作」

当館学芸員 井上信隆

「錦陵人物誌一五〇年(仮題)」

育徳館中学校長小正路淑泰氏

*要申込/定員60名(先着順)

*参加費一〇〇円(資料代)

まつり記念絵画・作文コンクール表彰

*詳細はHPやポスター等ご覧

になるか博物館までお問合せ

下さい。

古墳をはじめとしたみやこ町の豊かな文化遺産を活かしたまちづくり・「楽習」の場づくりを進める学びの祭典「みやこ町古墳まつり」。6回目を迎える今年のテーマは「みやこの明治一五〇年」です。
近代日本を育んだ「前を向いた時代」を見つめ直す学習イベントを用意しています。お気軽に参加下さい!



▲写真は昨年の様子[上:神楽上演/下:講演会]

◆講座・教養催し物ガイド 10月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

10月6日(土) 9時30分~

【古文書講座】

10月13日(土) 10時~

【古典かな講座】

10月20日(土) 9時30分~

【みやこ学講座】

10月27日(土) 10時~

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

博物館で「楽習」しませんか?

あなたも一緒に学びませんか?

どなたでも、今からでも、お試し参加もOKです。詳しくは博物館へ!

①歴史講座(講座4種/上記参照)

館や町内外の文化遺産を題材に、

町の歴史と文化を学びます。

②文化遺産ボランティア養成講座

町の宝を自分達の手でガイド&ガイドできるよつ「楽習」する講座です。

③博物館友の会

「故郷を楽しく学ぶ」がモットー。

11月のバスハイクは貴方も一緒に!

7・8月の業務日誌から

7月25日(水)、苅田町南原小の児童66名の皆さんを対象に勾玉づくり教室を開催しました。夏休み期間の校外体験活動として行われたもので、世界に一つだけのアクセサリーを作る事ができました。

8月5日(日)、友の会夏のバスハイクで「ミュージアムツアー」を行いました。九州国立博物館ではミニ展示4件を、福岡市博物館では浮世絵と幽霊画を鑑賞し「幽霊で涼しくなった!」との声が…。

8月19日(日)午前、夏の企画展「みやこ世界の昆虫展」に伴うミュージアムトークが開かれました。本展に協力いただいた昆虫研究者・松田勝弘氏が語る昆虫の世界の逸話に皆さん感心しきりでした。

8月19日(日)午後、夏休み企画「鉱物標本をつくろう」が開かれ、夏休み中の親子約50名が参加して、標本を作りながら、石器の石材など鉱物の奥深い世界を覗いていただきました。



▲福岡市博物館のエントランスにて。浮世絵美人の笑顔もクール



▲歴史の中で色々な石が使われてきたことも学びました



▲作り方のレクチャーを受け、いざ勾玉づくりハチャレンジ!



▲海外の昆虫採集の際のエピソードもうかがうことができました

みやこの歴史発見伝 ⑪
よしだますぞう
吉田増蔵(その五)

―叔父 山田義昌―

「吉田学軒の叔父」

山田義昌(号は「松高斎霍眠」)は現在のみやこ町犀川山鹿の庄屋、山田利兵衛(父)と、とち(母)の三男として天保六年(一八三五)に生まれ、姉のいつは、吉田健作・増蔵の母にあたります。母のとはは現在のみやこ町犀川統命院で旧本庄、久富村などの庄屋を勤めた村上家の出身です。山田義昌は幼名を源吾と名乗り、幼少の頃から読書に秀で、藩の役人の前で軍書の朗読を披露して褒められたというエピソードが残されています。

その後、思永館の庶務主任書記に抜擢されますが、慶応二年(一八六六)、三十一歳の時、第二次長州征伐に伴い小倉を去り、慶応四年に現在の田川市楠で寺小屋を開きます。その後、夏吉(田川市)、中津原(香春町)の庄屋を務めた後、四十歳の時に京都・仲津両郡の郡書記となり、行橋市大橋に居を移します。明治十五年(一八八二)以降、故郷の山鹿に帰り、専ら社寺の天井画を中心とした絵を描き、明治三十九年



▲山田義昌が描いた天井絵(黒田神社)

(一九〇六)、病気のため七十一歳で亡くなります。山田義昌の遺作は現在、みやこ町内では二兎神社(犀川花熊)、黒田神社(勝山黒田)、若宮八幡宮(勝山宮原)の天井絵にみることができ、町外では近隣の行橋市、荻田町、香春町に作品が残されています。犀川山鹿にある彼の墓碑は、山田義昌の四男で増蔵の従弟にあたる季造によって建てられました。その碑文を吉田増蔵に依頼しています。また山田季造は、豊津中学校(現在の育徳館高等学校)の教師を勤めています。裏面には甥の吉田増蔵による絵画の才能に秀でた叔父の詳細な履歴が刻まれており、増蔵にとって彼が特別な存在であったことが伺えます。

【井上信隆】

博物館おすすめの逸品レポート

Vol.27

この展示(& 収蔵資料)ココが見どころ、ココがツボ!!



●資料名

小宮豊隆宛て寺田寅彦書簡(封書) 1点

●データファイル

法 量 : 封筒1・便箋2枚

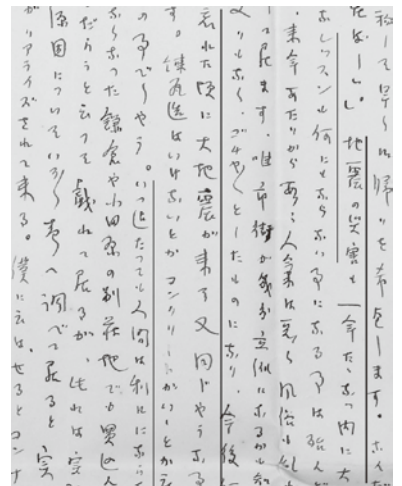
製作年代 : 大正12年(1923)11月

ポイント : 文中各所に表れる寺田の所見

公開状況 : 保存・収蔵用資料として現在は非展示



▲書簡全景(右写真は、点線枠部分拡大)。21×27cmの便箋に、一文字が4mm四方前後のごく小さな文字でびっしりと書き込まれている。「天災は忘れられたる頃来る」という寺田の有名な警句を彷彿とさせる文言が記される(右写真傍線部)ほか、地震の発生から復興の様子、事件・世相等記す震災の一級史料である。



memo

この資料は天災打ち続く今年にこそ注目すべきもので、町指定文化財「小宮豊隆資料」のうち、親友の科学者・寺田寅彦(1878~1936)から小宮宛寄せられた手紙の一つです。

手紙が書かれた大正12年、小宮はドイツへ留学中でしたが、9月に関東大震災が発生。東京に家族を残していた小宮は、それ以降悲嘆と不安(さいな)まれる日々でした。ただ漱石同門の友

人たちが代わる代わるに小宮の家族の無事を発信、小宮は遠い異郷でいち早く落ち着きを取り戻すことができました。寺田も通信者の一人でしたが、地球物理学者だけに今回の地震を鋭く分析、のちに語ったとされる名フレーズや所感を手紙の中に幾つも書き残しています。

「地震の災害も一年立たないうち

て此の高価なレッスンも何にもならない」「すっかりもう人が忘れた頃に大地震が来て又同じようなことを繰り返す」「いつまでたっても人間は利口にならないのだと思います」等々…。

この他にも震災で起こった人災(あま)甘粕事件・朝鮮人虐殺事件)にも触れており、寺田の手紙は被災した科学者による迫真のレポートとなっています。

(木村達美)